

大和市子ども読書活動推進会議記録

会議名		令和6年度第2回大和市子ども読書活動推進会議
開催日時		令和6年10月17日(木)15時00分～17時
開催場所		文化創造拠点シリウス610大会議室
出席 状況	参加委員	<推進会議委員> 今宮智子、伊禮利奈、今井恵子、良知仁美、内田久美子 脇田奈緒子、長嶋智美、福井朱里(順不同・敬称略)
	欠席委員	大川伸子、古木裕彦(敬称略)
	市側出席者	<事務局職員>(4名)
	指定管理者	<図書館スタッフ>(2名)
	傍聴人人数	0名
公開非公開の状況		☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開
審議又は検討経過及び結果		1. 開会 ・委員の出席状況の確認(10名中8名出席) ・配布資料確認 2議事 (1)子ども読書よむ読むプラン実施計画進捗点検について(資料1) ◎事務局より、資料1を基に、子ども読書よむ読むプラン実施計画進捗点検について説明。 会 長: 前回の会議で配布された資料2-3を見ながら進捗点検を進める。 委 員: 「1. 読書活動の意義を伝えるリーフレットの配布」について、リーフレットの配布を断られた方の理由は把握しているのか。100%渡したかった場合、理由を把握することが100%につながると思う。今後続けていくのであればそういう点で見るのはどうか。 事務局: 4か月健診の場で行っている。100%を達成できない理由として、受診者が急いでいて渡せない等があると聞いている。ただ、今回6名の方に渡せなかった個別の理由までは追っていない。意見で6名の方の理由を調べてほしいと意見を出せば、担当に伝えることはできる。 会 長: お母さまに断られたら、あまり強くは言えない。 委 員: 「1. 読書活動の意義を伝えるリーフレットの配布」はこのブックスタートのリーフレットの配布であって、配っている絵本とは別という認識で良いか。 事務局: 本とリーフレットはほぼ同時に配っているが、方策としては「家庭における読書の推進」と、この後の「読書の魅力に触れる機会の提供」の別観点でカウントをしている。 会 長: 健診のパーセンテージは健診に参加していないご家族も含めてのパーセンテージか。 図書館: パーセンテージは参加者のみでカウントしている。 会 長: それに対しての、評価その他をどうするかということまで詰めなくて良いか。 委員の意見として、100%に近づけるように心がけてください、と加えていただくということで良いか。

異議なし。

会 長: 順番は前後するが、方策1について事務局から説明をお願いします。

事務局: 方策1「1. 読書活動の意義を伝えるリーフレットの配布」に修正がある。令和5年度実績の②99.8%を99.6%に修正、具体的内容の人数を1,729人から1,731人に修正をお願いします。

委 員: 初めて「家読」というものを知った。実際学校に貼ってあるポスターを見たが、子どもの口から聞くことがなく、もったいないと思った。先生がどれほど伝えているのか、朝読書が今現在もあるのか疑問に思うが、せっかくあるならもっと活用したいと思った。

委 員: 家読に関しては、以前から各校でポスターを手掛かりに家読の日の放送を図書委員さんが入れるなどの取組は行っていると思う。ただ、学校によって、夏休み中に家族で家読をする目的でカードや手紙を配る、などの取組の差はあると思う。朝読書に関しては、外国語活動等が出て来て、読書する時間は減ってきているが、朝読書や昼読書などは、どこかで必ず読書は入れている、小学校だとやらなくてはいけない時間の枠組みもあるので、おそらく0ではないと思う。ただ、ピークの時より減少していると思うので、家読を知っている人から家庭等で広めていくと、子どもたちも「23日は家読の日」という認識に変わっていくと考える。

委 員: 保育園等の、小学校に上がる前で、親子で本を読める時間がある子どもと保護者に知ってもらうことが一番良いと思う。各園で絵本の貸出も行っていると思うが、コーナーに家読のキャラクターうちどくなどを貼ることにより、子どもも保護者も興味を持ち、家読の日を認識した状態で小学校につなげていくことが一番取組をしやすいと思う。家読のホームページにはかわいいキャラクターがいて、そういうものをフリーで使えるようにしてもらえると、プロモーションが学校に限定されずに、幼稚園保育園でも子どもや保護者に広げていけると考えている。

会 長: 「3. 家読推進プロモーションの実施」で、会議の意見として、できれば幼稚園保育園等、学校だけでなくもう一言入れていただけたら良いと思う。

委 員: 「1. 読書活動の意義を伝えるリーフレットの配布」では、4か月健診に来た方に対して、実際どのように行っているのか。

図書館: トートバッグと絵本の他に、リーフレット、ブックリスト、市内の文化施設の案内と、市内のおはなし会開催情報を入れている。

委 員: その際に、読み聞かせを実際に行っていると聞いたが。

図書館: ブックスタートボランティアを養成しており、毎回6名程度の方にご参加いただいている。健診後に会場で絵本の読み聞かせを実施し、その中から1冊選んだ絵本を持って帰ってもらっている。

委 員: そのときに、家で読んでください等の働きかけはしているか。

図書館: それはリーフレットで行っている。読み聞かせは健診の最後に行っているが、参加者は4か月健診で疲れているため、リーフレットは家で読んでもらうように

お願いしている。

委員：リーフレットが本当に読まれているのかと、いただいた方ではなく、ご家族の方にどこまで届いているのか疑問に思った。

図書館：コロナの時は1名だけの制限があったので、お母様しか入れないこともあったが、最近はお夫婦で健診に来られる方も多く、読み聞かせもお夫婦と一緒に聞いており、今のご家族はお父様も読み聞かせに参加していると思う。

委員：保育園で借りるときにも、お父様が積極的にお子さんと喋りながら借りて行かれることが多い。

委員：リーフレットのデジタル版はあるのか。例えばQRコード等、今の保護者は紙ベースでもらうよりもQRコード読み取りの方が、隙間時間にちょっと見るができると思う。

図書館：NPOブックスタートのホームページでは色々な動画等を見ることができる。コロナの時は読み聞かせができなかったので、NPOブックスタートが作成した動画のQRコードを付けていた。今はリーフレットに付けていないが、ホームページでは見ることができる。

会長：ブックスタートではリーフレットと絵本を face to face で「本をどうぞ」と赤ちゃんとお母さまに手渡すことに意義がある。ブックスタートは40年位前にイギリスで始まったが、その時の意義が手渡しとのことだ。私も講義で勉強しただけで受け売りだが。なので、本を手渡すときにリーフレットも、ということだと思う。デジタル化に関しては、この項目だけでなく、他にもデジタル化した方が良いものが出てくると思うので、また話していけたら良いと思う。

方策1について修正項目等、事務強から願います。

事務局：「4. 親子で調べる学習の推進」の目標について、以前は7,000作品が限界との意見があり、目標を7,000作品で設定したが、令和5年度だと実績が8,000作品にあがっていたので、このままで良いのか意見を伺いたい。「5. 読書活動推進キャンペーンの実施」の読書感想文の作品は減っているので、このままでも良いという考え方もある。

会長：方策2に修正箇所があれば事務局から願います。

事務局：「5. 読書活動推進キャンペーンの実施」で、資料2-4で担当に図書・学び交流課が入っている。内容は「古本まつりに参加する」というものだが、産業フェアの開催の仕方が変わり、古本まつりを開催することがなくなったことから、実施計画の中から図書・学び交流課を削除するべきかと考える。「6. 市内イベントでのPR活動の実施」の具体的内容「中央林間マルシェ」の部分は、「中央林間手づくりマルシェ」が正しいので、修正をお願いする。

委員：「5. 読書活動推進キャンペーンの実施」で、今年度、読書感想文の代表作品数がとても減っていた。調べる学習は授業の中で扱えるため、人数は子どもの数だけ増減はあると思うが、読書感想文に関してはなかなか授業で取り扱えず、どうしても家庭での宿題になるので、今回減っていることから見ても、おそらく数値を高く持ち過ぎると大変かと思う。

事務局：目標に関しては3,200前後にすべきか。

委員:3,500くらいが妥当かと思う。

委員:質問だが、読書感想文の課題図書は電子図書館で借りられるのか。読書感想文を書くために課題図書を買い、読んで書くとなると、ハードルが高い。例えば、電子図書館で貸出できるものがあったら、もう少し取組しやすくなると思う。あとは試し読みをして選べるメリットもあると思う。

図書館:課題図書が電子書籍になっているかは、出版社次第だ。そのため、図書でなくてはいけないことはない。

委員:自由図書と課題図書があるものと、神奈川新聞主催の読書感想文コンクール等もある。学校がどこを持っているかにもよるが、お気に入りの一冊で取り組むことができる。

委員:「5. 読書活動推進キャンペーンの実施」で、「より多くの機会の提供を期待します。」と推進会議の意見(案)に書いてあるが、その割には目標が増加していないように感じる。文面と回数が見合っていないので、もう少し増やす等、そういうことはないか。

事務局:うちドックの企画等は、夏休みや冬休みにやることはあるのか。

図書館:これは「13. ゲーム形式で読書を楽しめる企画の実施」で夏休みに毎年チャレンジ企画等を行っている。

事務局:目標回数を上げ、担当課にもうちょっと頑張ると伝えることはできる。

会長:方策3について、修正提案等を事務局から願います。

事務局:事務局から方策3「10. おはなし会や読み聞かせ等の開催」の令和5年度の実績が「300回、5,375人」となっているが、ボラリスで中央林間図書館が行っている読み聞かせを、ダブルカウントしてしまったため、「288回、5,014人」に修正を願います。

「12. ブックスタートの実施」の令和5年度の実績が「100%」になっているところを、「1. 読書活動の意義を伝えるリーフレットの配布」にあわせるべきだと考えているため、「99.6%」に修正を願います。

委員:これはなぜ100%を目指していないのか。実績が100%になってないことは仕方ないが、計画は本来であれば100%を目指すのが妥当だと思う。

事務局:受け取っていただけない方がいることを考えると100%にはできないかなと考えた。

委員:100%を目標として、実績が下回ってしまうのは仕方がない。ただ、最初から消極的でなくてもいいと思う。

事務局:おそらく実施計画をつくる時に、過去の実績を見て現実的なところで当時の目標になったと思う。もともと高い数字ではあるので、すべての人に貰ってもらいたいという観点から、目標を100%とするのはありだと思う。そこは委員の皆さんで決めていただきたい。

会長:13番の実施について、まずは、方策2で質問していただいた方、もう一度お話を願います。

委員:方策2の取組5の意見「より多くの機会の提供を期待します」に関して、令和8年度には3回に増えるが、令和6年と7年は実績とほぼ変わらないので、ど

ういうところで増やすことを期待しているのか、どういった機会があるのか、よく分からなかった。推進キャンペーンとPR活動は別物ということか。

会 長:それを含めての実績が13番に上がってきているのだと思う。

事務局:13番の場合、学習センターに対して令和6年度以降に事業数を2回から3回に増やすこと、5番の場合、図書館に対して令和8年度に事業数を3回に増やすことを目標としている。

委 員:ブックリストに載っている年齢はどれくらい重要性があるのか。例えば、小学校の高学年とか中学生でも、低学年向けの本が楽しめると思うが、年齢で区切ることに意味があるのか。

図書館:発達に応じた本を紹介するが、広範囲になるとそれだけ紹介できる冊数が減ってしまう。紹介する冊数を増やすと分厚いものになり、手に取るのが大変になる。ブックリストは、徐々に作ってきた。まずは赤ちゃん向けのもの、次に絵本の中でも幼い子向けのものを作り、小学校で読み聞かせが活発になったときに、ボランティアの方等に向けて作っていった。

委 員:お母さま向けに年齢を示しているということか。

図書館:書籍は小学生向けの中でも、例えば低学年向けの読み聞かせにお勧めの本などで分けている。赤ちゃん向けのブックリストの中でも、「はじめてであう」「すこしなれたら」等、おおまかな発達に応じて分けている。その時期に必要とする方にブックリストを渡せるように過去から作ってきている。

委 員:では、その年齢を決めているのは、ブックリストを作っている出版社等ではなく、ブックリストを作っている方が決めているのか。

図書館:そのとおりである。

会 長:大和市の市立図書館用のブックリストは何種類もある。例えば、ヤングアダルトのもの、家読で読めるような文学書のもの。それは、例えば小学校6年生だから対象のブックリストしかもらえないわけではなく、赤ちゃん向けの可愛い絵本が気になるのであれば、受け取ることができる。一冊は小冊子くらいのボリュームで司書の方が紹介している。

委 員:これは保育施設や市内の学校への配布はしていないのか。

委 員:届いている。

委 員:図書館でも本を選ぶときに手が届くところにあり、とても分かりやすい。ボランティアが初めての方に、おすすめしやすく、参考にしている。

委 員:「16. セカンドブックの実施」はブックスタートと同じように3歳6か月健診でもらえるものという認識であっているか。

事務局:3歳6か月健診の場で直接本を渡すのではなく、絵本と引き換えられるチケットを渡し、各図書館にご来館いただいた際に本を渡すことになっており、図書館に来ていただくことを狙った内容になっている。

委 員:最初は本に親しんでもらうことが目的で配っていると思うが、セカンドブックは一步進んで図書館に来てもらうことを目的としているから、目標も少し低い設定にしているということか。

事務局:他市の実績を見ても実績が大体6割なので、この目標にしている。

会 長：引き換え率がもう少し上がると嬉しい。

委 員：せっかくこうした機会があるならば、引き換え率がもう少し上がるような工夫や、周知があると良いと思った。ただ、自分から行って受取らないといけなところで、なにか背中の一押しにつながるものがあると良いと思った。

会 長：意識啓発に対する活動や目標設定はすごく難しい。

余談だが、ブックスタートが始まって何年も経ち定着はしているが、相変わらずブックオフにブックスタートの本が多い。子供が集まるような施設で、お母様に本の寄贈を働きかけたことがある。そうしたら、ブックスタートの本がたくさん来て、手元に置いておいて楽しむところまで意識づけて働きかけるのはまだまだこれからだと思った。1年2年で達成できる目標ではないので、少しずつ草の根活動をしていくことで広がっていくと思う。

委 員：ブックスタートもそうだが、渡す本は毎年内容が変わっているのか。

図書館：ブックスタートの本は、NPOブックスタートで3年に1回リストを再検討する。そのリストの本を、市内の公立保育園の対象年齢のお子さんに読み聞かせしていただき、反応をアンケートで回答いただいている。回答を数値化し、全体のバランスを考えて図書館で選定をしている。なので、評価の高いものをお渡ししているが、兄弟で同じ本にならないように、毎年少しずつ入れ替えをしている。セカンドブックは、人気があり、かつ、神奈川県ブックリストに入っている本を選ぶが、そこに重なる本が少ないため、変えていない。

会 長：実際に大和市の保育士さんの意見が取り込まれているため、現場で生きた評価をそのまま選本に反映している。

委 員：受取時、兄弟がいると選ぶ本が狭められると疑問に思い、お聞きした。

会 長：方策4について、修正提案等を事務局から願います。

事務局：方策4に関しては事務局からの修正はない。

委 員：「18. 動画・漫画を活用した読書へのきっかけづくり」で子どもたちが漫画や動画で何に興味を持っているかだが、例えば17番の電子書籍の履歴から傾向等を見ているのか、それとも、世間一般的な子どもたちの興味から調べているのか。電子書籍の閲覧履歴等から見るのはどうか。

事務局：電子書籍に関して、学校に導入して3か月なので、実績の分析はしていない。確かに18番に生かしていくことは考えられるので、分析することはできる。令和5年度は実績がないが、メディア化等があったタイミングの物を集めて展示をしているようだ。

会 長：私は18番に凄く期待している。直接メディア化された作品というより、今話題になっている作品に出てくるものを派生させたものを集めるコーナーがあっても良いと思った。

図書館：そういうものは展示でやっている。展示コーナーがあるので、各フロアで毎月やることが多い。

委 員：4階の展示コーナーに一時期貼りだしてあった、生の中高生の声を書いてある掲示物を見たことがあり、とても読んでみたくなる書き方をしていた。そういうコーナーがもう少し広がると、「同世代が読んでいるこれが面白そう」等がき

っかけで、手に取ってもらえると面白いと思う。

図書館：今年から、図書館で図書委員という活動が始まった。なので、その活動が今後出てくると思う。現在、電子図書館で、YAの図書委員たちが選本した電子図書の特集がある。そういうものを彼らが定期的にやっていくことが、情報発信の一つになると思う。

会 長：例えば、4階ではなくて、1階でパネル展示等をしたら、4階まで来ない学生さんの目に留まるのではと思った。

図書館：担当に伝えてみる。

会 長：市民まつりのときに、パネル展示は結構足を止めてみる方が多かった。あれは小学生のPOPだったが、にぎやかで、子どもたちの手書きだった。それが中学生でも高校生でも図書館員さんでも、例えばイラストが好きな女の子が、絵本のイラストの挿絵とかでも書くような行事があり、それをパネル展示したら、それに関する本を貸し出せると思った。

委 員：中高生が集まるのは、6階のイメージがある。そういったところも活用していけたら良いのではないか。

図書館：職場体験の子たちに書いてもらったPOPは4階の展示コーナーのところで一定期間毎年展示している。

会 長：意外とパネル展示は皆さん見る。

図書館：職場体験の際に4階で展示したものを、市民まつりのときに掲示物にして使用している。館内だけで掲示するのはもったいないので、何回か使っている。

会 長：推進会議の案としては、この辺りは大丈夫か。

「19. 中高生の図書ボランティア講座」の3校は学校を教えてもらいたい。

事務局：つきみ野学習センターでやっている職場体験がカウントされ、令和5年度は0校になっている。昨年、つきみ野学習センターで工事があり、募集しなかったと聞いている。学校に関しては、おそらくつきみ野学習センター周辺の学校だと思われる。今年度は、職場体験は既に実施しているので、来年度はここに数字が入ってくることは申し上げておく。

会 長：目標2方策1について、修正提案等を事務局からお願いします。事務局：実施計画の変更の提案をする。「25. 絵本蔵書の充実」で、概要欄の「絵本のまちやまと」は、市として「絵本のまちやまと」を積極的に使わなくなったので、「子ども図書館」、に変更したいと思うがいかがか。

会 長：では、こちらでご意見のある方はいらっしゃるか。

意見なし

会 長：「26. 児童館等における図書の充実」は委員会ができた平成13年から続けている方策だ。どうしても図書館に来ない、地域の中での活動が生活の軸である子は、児童館やコミセンが生活の拠点になるため、そこに対して本を提供できないかということで進めてきた。今後も頑張って進めていただきたい。施設数が変わっていないので、もう少し広がれば良い。

委員：これには学童は入っているのか。

事務局：入っている。児童クラブが学童のことだ。会長：昔と違って学童が民間に移ったところもあり、状況が変わってしまったので難しいところではあると思う。

委員：令和6～8年度で同じ数字ということは、施設数が変わっていない中でということであっているか。

事務局：公設の児童クラブも児童館も早々に増えることはないのでその認識であっている。

委員：児童館は実績が減っているから、施設数も減っているのか。

事務局：全施設に入れるということは厳しいという考えで、31施設にしている。

委員：具体的内容に公設児童クラブが15か所、児童館が18か所で、33施設はあるということか。

事務局：児童クラブは各小学校に存在するはずなので、19施設だが、学校内にあるのは、17だったかと思う。

委員：「22. 多様な背景を持つ子どもへの読書支援」で、多言語図書を68冊というのは、大和市立図書館3階に子ども向けのものがあるということか。

図書館：3階に外国語絵本がある。

事務局：「30. まちなか絵本スポット実施」で修正と提案がある。まちなか絵本スポットは、昨年度で終了し、団体貸出の中に同様のメニューとして絵本セットを残している。取組名を「まちなか絵本スポットの実施」ではなく、「絵本セットの貸出（団体貸出の利用推進②）」に変更提案させていただく。概要も「市内の希望施設に絵本セットを団体貸出の一つとして貸し出します」に変えたいと考えている。委員：意見のところも変えなくてはいけないのか。事務局：令和5年度に対しての意見なので、そこは良いと思う。「形を変えても継続してください」にしても良いかもしれない。

委員：「29. 団体貸出の利用推進」で、大和に近い保育園だと、貸出期間に毎回借りることができたが、大和に遠い園になってしまうと、取りに行くだけでも、職員が出かける時間が長く、冊数も100冊あるので、かなり負担になる。絵本セットの貸出が他の図書館でもできると、今借りていない施設も借りやすくなると思う。100冊でなくても50冊や30冊のセットで、乳児向きや5歳向きのもの等があるとより良い。現場を抜ける時間と、借りたい気持ちとのせめぎあい、地域によって利便性が分かれてしまっていることも利用が増えていかない原因だと思うので、もう少し増えていけば良いと思う。

事務局：選んだ本を近くの図書館に本を持っていくことはできるのか。

図書館：現在はやっていない。絵本セットは、こちらとしても小規模園に使ってもらいたいと思っている。団体向けリサイクルフェアの際に宣伝をしている。1、2園に申込をいただいたが、なかなか貸出につながらない。絵本セットは配送までこちらです。30冊を1年間貸し出ししており、セットは0、1、2歳向け、3～6歳向け、0～6歳向け、7歳以上の4種類で作っているので、ぜひご利用いただきたい。こちらとしても、団体向けリサイクルフェアに参加した団体に直接チラシを渡したりはしているが、なかなか広報が行きわたらない。団体貸出を他の図書

館で受け取れるかは、配送の契約がどうなっているのかだと思う。

事務局：図書館でコンテナに入っているものを運ぶだけの取決めなのでできなくはないと思う。

図書館：もしそれが可能であれば、近くの図書館で受け取りができるのかもしれないが、制度自体を変えないと実施できない。市で団体貸出の要領を変えることができれば、近くの図書館で受け取ることも可能だと思う。ただその場合、選本をどうするのかという課題がある。絵本セットであればすぐに持っていけるが、団体貸出の良いところは実際に棚から読みたい本を選べることなので、配送はできても選本には来ていただかないと本を選べなくなる。制度的には要領の中には入っていないが、何冊くらいでこういったものを貸してほしいとの依頼をもらい、選本は図書館にまかせるということも可能な制度があれば、出来ることはあると思う。学校貸出も、「こういった授業で使える本」とご依頼いただき、選本は図書館が行っている。

会 長：そういった意見があったことも踏まえて計画に取り入れていけたら良い。

目標3方策1については意見等なし。

会 長：目標3方策2について事務局から修正提案をお願いします。

事務局：事務局から修正がある。「40. 学校司書連絡会・研修会の開催」で、二次点検の案をAに修正をお願いします。「38. 大和市子ども読書活動推進会議の運営」で、4回が目標だが、古本まつりの実施がなくなり、その準備のために行っていた1回を最近では開催していないことから、目標数を令和6年度と令和7年度は3回、令和8年度は、子ども読書活動推進計画の見直しがあるため、4回のままにしたい。

会 長：「39. ボランティア情報交換会の開催」で、団体がもっと増えて積極的な情報交換ができるようにとの思いが目標値に表れている。ボランティアの集いの内容は、情報交換とPOP作りに定着してきたと思うが、1回参加するともう参加しない団体もいるため、新しい項目が加われば、参加する団体も増えてくるといった。学校では、先輩のお母さま方が後輩のお母さま方に教えていて、ボランティアの養成講座やボランティア自体の情報交換に参加しないという学校も増えてきている様子があるので、何か内容を少しずつ変えて、新鮮なものにできたら良いと思った。

委 員：39番で、一次点検でBになっているということは、もともと1回ではなく、複数回計画していたということか。

事務局：目標団体数が10になっており、8割に届かないので、Bにしている。

委 員：回数が1回だとその日に出られない団体はチャンスを逃してしまうと思うので、別日や春と秋に開催するなど、何か参加ができるような工夫があっても良いと思った。他の学校での活動内容を知る機会はないかな。

会 長：コロナの前は、もっと参加団体は多かったか。

図書館：このくらいだ。ただ、旧館の時は視聴覚室で新刊の展示会を1週間くらいで

きた。あの時は、かなりの児童書を一堂に並べることができたため、参加も多かったように思う。ただ、今はボランティアの集いの際に新刊絵本を会場に展示はしているが、長期間展示できる場所は取れないので、残りは3階の展示コーナーに出す形で行っている。それだけだと魅力に欠けるのかもしれない。

会 長：確かにもったいないとは思う。何か広報か内容を変えてみてはどうだろうという一つの意見だ。

委 員：参加したくても、どうしても参加できない場合がある。もう少し早く分かっていたら仕事調整できるが、例えば大体何月くらいに開催するのか、別の機会があるかなど、年に何回いつの時期に開催するかが分かっていたら、調整できる。

図書館：10月開催の8月末にお知らせさせていただいている。

委 員：8月の末だと、ボランティアに連絡が来るのが、夏休み明けの9月の半ばが一番初めて、そこから聞き込みをすると、結構間際になる。先生方も2学期行事がととても多らしくスムーズにいかない。

図書館：前は3月に開催していたが、そうすると、新旧の入れ替えの時期になり、旧の人が来ても仕方なく、新の人はまだ決まっていない、という意見があり秋にずらした。もう少し後にずらすこともできるが、春だとボランティアの方がまだ決まっていなくてできない。秋の運動会の時期を外してほしいという意見もあり、今の時期に落ち着いている。毎回アンケートで開催日のことも聞いているが、参加の方はそういったご意見が多かった。こちらの方で把握しているボランティア団体にも事前に通知を差し上げてアンケートを取り、いろいろな対応をしてフィードバックもしている。もし開催時期や、複数回やって欲しいとかがあれば、ご記入いただけると、皆さんの目にもとまり、意見も聞けて、今後の実施について変更できるのかなと思う。

会 長：事前アンケートにたくさん書き込んで、少しずつ改善していただけると良いと思う。ボランティア同士の横のつながりはなかなか難しい。すぐに答えが出せるとか、改善するとか、この文言を変えるという形では無いが、思いをくみ取っていただけたらと思う。

委 員：「35. ボランティア養成講座の開催」で、ボランティアメンバーが決まったときにはすでに養成講座の申し込みが終わっていることがあった。例えば、4回で184人参加は、どういう参加者の割合なのか。

図書館：入門編の定員は約30人で募集する。毎回満員で、抽選に落ちる方もいるくらいだ。乳幼児編も満席に近い。この講座はブックスタートボランティアをしたい方にも受けてもらっている。ブラッシュアップ編は経験者向けで、満席にならないことが多く、30人募集で20数名参加する。ストーリーテリングボランティアは素ばなしのボランティアさんだが、これも約15人前後。これは講師の方からあまり大人数だとできないと言われているので、募集人数自体が少ない。講座では実習があり、素ばなしを1人2回各10分前後行う時間があり、人数が増やせない状況だ。

会 長：今回の意見を基にして、事務局の方で最終案を作成していただく。最終案

	の確認は私に一任させていただく形でよろしいか。 異議なし (2)その他 ◎事務局より、次回大和市民まつりにも参加することを報告、詳細は第3回で説明する。 3. 閉会 以上
--	---